



自分の成長や仲間とのつながり

岡山県教職員組合 合田 典生

2011年連合災害派遣ボランティアとして、4月末から5月上旬まで、東日本大震災被災地域で救援ボランティア活動を10日間程度行った。今回、その時一緒に活動した仲間の方から、本コラムの話をいただき「つぶやく」(執筆する)ことになった。

私が教員に採用された当時は職員の年齢層が今の状況と大きく異なっていた。中堅、ベテランの先生方も多く、その先生方のそばで、たくさんのことを学ばせてもらった。自分自身も仕事が楽しかったし、遅くまで教材研究をしたり、公開授業の準備をしたりしていた。朝から晩まで仕事をするだけでなく、多くの仲間の先生方とも食事をしたり、スポーツをしたりして、リフレッシュしながら楽しく過ごしていたように思う。

10年以上の月日がたち、職員構成は大きく変わった。お世話になったベテランの先輩方の多くは退職し、若年層中心の現場となった。10年ほどしかたっていないのに、教育現場は大きく変わった。採用された頃は、想像もしていなかったが、今の自分はどうか。先輩方の

ように、若い先生方にヒントを与えられるような存在になっているだろうか。あんまり自信はない。

仲間とのつながりという点ではどうだろうか。コロナ禍ということもあり、職場での飲み会や食事会は当然NG、スポーツなどのリフレッシュできる活動も実施が難しい。仕事以外のちょっとした時間の関りは、変化せざるを得ない状況になってしまった。学校現場の教職員に限らず、仲間とのつながりは仕事をすすめる上で大切なことである。そのかわりの中で、指導力向上を図ったり、愚痴や相談をしあったりして、リフレッシュしておおらかな気持ちで子どもに向き合うことが大切だと思う。

これまで数多くの仲間を支えられてきて今の自分がある。退職した先輩方に、恩返しをすることは難しい面もあるが、教職員の仲間たちが互いに指導力向上をしながら、前向きな気持ちで仕事に取り組んでいけるように、自分にできることをしていきたいと思う。そして、感謝の気持ちを表しながら、互いに支え合う仲間を大切にしていきたい。